

1) 地区の概況

- ①本地区は市の北部に位置しており、北は長与町と接しています。浦上川沿いに一部平坦地があり、周囲は丘陵地に囲まれています。また、北側には浦上ダムが位置しています。
- ②古くから長与方面に至る交通の要所で、現在でも川平町に長崎バイパスの料金徴収所やインターチェンジが置かれています。
- ③江戸期における浦上4カ村のうちの住吉・昭和周辺の浦上家野村、西北・岩屋周辺の浦上北村、西町周辺の浦上西村により構成され、明治5年に西浦上村の一部となり、昭和13年に市域に編入されました。

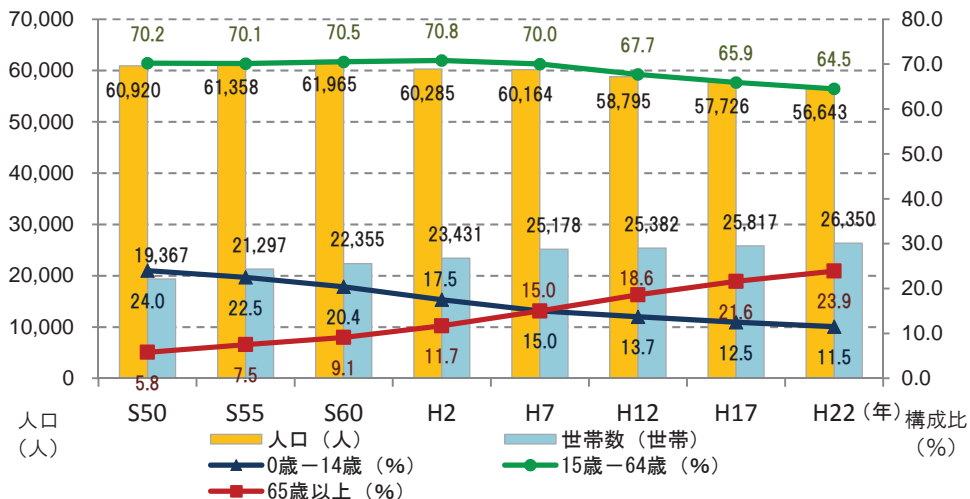
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域面積の4.6%（1,865.7ha）であり、市街化区域面積は地区面積の35.9%（669.9ha）となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は56,643人で、昭和50年の60,920人と比較して減少しています。世帯数は、昭和50年の19,367世帯から平成22年で26,350世帯と増加しています。1世帯あたり人員は2.1人となっており、市平均の2.4人を下回っております。
- ③65歳以上の人口割合は23.9%と市平均25.0%を下回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約44,800人まで減少することが予測されています。
- ⑤市街地は浦上川、三川川の両岸の平坦地や、山林を造成して開発された女の都団地などで形成されています。地区内には国道34号長崎バイパス、主要地方道東長崎長与線などの主要な幹線道路が通っており、川平料金所周辺は交通結節点となっています。
- ⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、道路交通の「身近に利用する道路の整備・拡幅」と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

◎人口・世帯数の推移



◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	空き家対策	身近に利用する道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	31%	28%	32%	34%	24%	28%
西浦上	38%	33%	33%	30%	29%	19%	24%

◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
西浦上	114人	64人	17人	11人	3人	7人	11人	1人
	100.0%	56.1%	14.9%	9.6%	2.6%	6.1%	9.6%	0.9%

凡例 1位 2位 3位

3) 地区の主要課題

①防災性を考慮した住環境の整備・保全

地形に高低差等があることから、防災性を考慮した住環境の整備が必要です。開発による住宅団地の住環境の保全が必要です。長崎大学や福祉施設が配置されていることから、これと調和した住宅地の維持が必要です。

②広域及び周辺地区と連絡する幹線道路網の整備、公共交通の維持・強化

隣接する市町へのクロスポイントに位置し、各地区への円滑な連絡を図るため、諫早市や長与町と結ばれる東西幹線道路、時津町や佐世保市と結ばれる南北幹線道路網の強化が必要です。また、地区内の国道206号、中心部への国道34号バイパス等の渋滞を緩和する市道の整備が必要です。併せて、地区内を運行する公共交通の維持・強化が求められています。

③工業地の住宅地との調和

幹線道路沿道の住環境を保護するために、工業地の土地利用は、周辺住宅地との調和が必要です。

④商業・業務地の拠点形成、生活サービス施設の集積

周辺地区からの買い物環境の充実を図るため、西浦上支所周辺における商業・業務地の拠点形成が求められています。また、地区住民の生活の利便性を向上させるために、国道206号等の幹線道路周辺に生活サービスの集積が求められています。

⑤公共施設の維持・管理

公共施設の集約化が求められており、長崎市科学館や県立総合体育館等が配置されていることから、これらの文化、教育、スポーツ・レクリエーション機能の維持・管理が必要です。

⑥自然環境の保全

天竺山や帆場岳、岩屋山風致地区、浦上ダム周辺などに優れた緑地が分布していることから、その保全が必要です。

4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

北部地域の拠点として、賑わいと活力のある地区づくり

5) 地区の生活像の目標

住む：地域拠点の利便性を活かした住み良い快適な暮らしの確保

都市機能が集積した利便性の良い暮らしの確保を目指します。

働く：地域拠点としての商業・業務と文教地区を中心とした雇用の場の確保

地域拠点としての商業・業務と長崎大学などの文教地区としての雇用の場の確保を目指します。

動く：広域アクセスの充実と、都心部・都心周辺部や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

集う：地域拠点としての都市機能の集積

地域拠点としての都市機能の集積を行い、利便性の向上を目指します。

学ぶ・育む・やすらぐ

：豊かな自然環境と市街地の共存、学びの場の充実

市街地を囲む天竺山などの自然環境の保全や、長崎大学などの文教地区の確保を目指します。

6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	<p>■地域拠点の利便性を活かした快適な暮らしを確保する</p> <p>①生活利便性の高い地域拠点は、周辺環境に配慮した都市型居住を促進します。</p> <p>■良好な住環境を維持・保全する</p> <p>①コモンシティ住吉の杜など、計画的に整備された住宅市街地においては、地区計画等を活用し、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>②長崎大学や長崎純心大学などの教育施設周辺においては、教育環境と調和した市街地の形成を図ります。</p> <p>■住み良い生活環境を確保する</p> <p>①既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>②水害対策として、浦上ダムの再整備（多目的ダム化）を図ります。</p> <p>③長崎純心大学や恵の丘長崎原爆ホームなどが立地する三ツ山町周辺は自然環境と調和した良好な環境を保全します。</p>

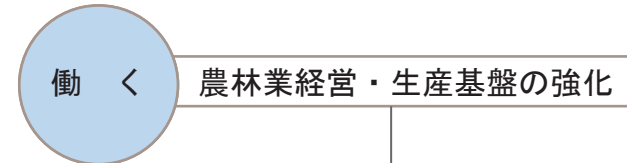
働 く	<p>■雇用の場を確保する</p> <p>①国道 206 号や市道住吉町昭和線の沿道においては、生活サービス機能を充実し、利便性の向上を図るとともに、周辺環境に配慮した商業・業務地の形成を図ります。</p> <p>②長崎大学や長崎純心大学を中心とした文教地区においては、教育・研究機関の集積による雇用の創出を検討します。</p> <p>③昭和町方面から川平小学校へ至る地区内幹線道路沿道の工業地は、隣接する住宅地との調和・環境保全を図ります。</p> <p>■産業基盤を確保する</p> <p>①農林業の経営・生産基盤の強化を図ります。</p>
動 く	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①放射環状型幹線道路網を形成する都市計画道路長崎外環状線、地域高規格道路長崎南北幹線道路の整備を促進します。</p> <p>②補助幹線道路として、市道油木町西町線と接続する市道虹が丘町西町 1 号線、市道清水町白鳥町 1 号線の整備を推進し、国道 206 号の交通渋滞の緩和を図ります。</p> <p>③広域アクセスの優位性による地域活性化を促進するため、川平インターチェンジの活用を図ります。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内では JR が運行され、また、主要な道路では、バス、路面電車が運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>②公共交通空白地域の解消を図るため、乗合タクシーの適正な運行に努めます。</p>
集 う	<p>■地域拠点としての都市機能を集積する</p> <p>①西浦上支所周辺においては、大規模店舗と連続した広域型の商店街が形成されており、機能の維持・保全を図るとともに回遊性や利便性、快適性の向上を図ります。</p> <p>②近隣商業地においては、地元住民に日常生活サービスを提供する地域の拠点として利便性の向上を図ります。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①県立総合体育館や長崎市科学館については、文化、教育、スポーツ・レクリエーション拠点として、適正な維持・管理を行います。</p> <p>②芸術文化の振興や豊かな市民生活の向上などに寄与する長崎市チトセピアホールは、今後も適切な維持・管理を行います。</p> <p>③地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■教育環境を整える</p> <p>①長崎大学や長崎純心大学などの教育施設が立地する文教地区としての市街地形成を図ります。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①岩屋山風致地区や天竺山、帆場岳、浦上ダム周辺などの市街地周辺の緑地については、良好な自然環境を保全するとともに、市街地内のみどりの創出を図ります。</p> <p>■親しみのある水辺環境を創る</p> <p>①浦上ダムや浦上川などは、市街地の貴重な水辺空間として保全・整備を図ります。</p> <p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①浦上ダム周辺の緑地は、市街地に近接した良好な緑地として、また、水源涵養緑地として、水とみどりが一体となった良好な緑地景観を保全します。</p>



動 < 補助幹線道路の整備
(市) 虹が丘町西町1号線



住 む 良好な住宅市街地の維持・保全



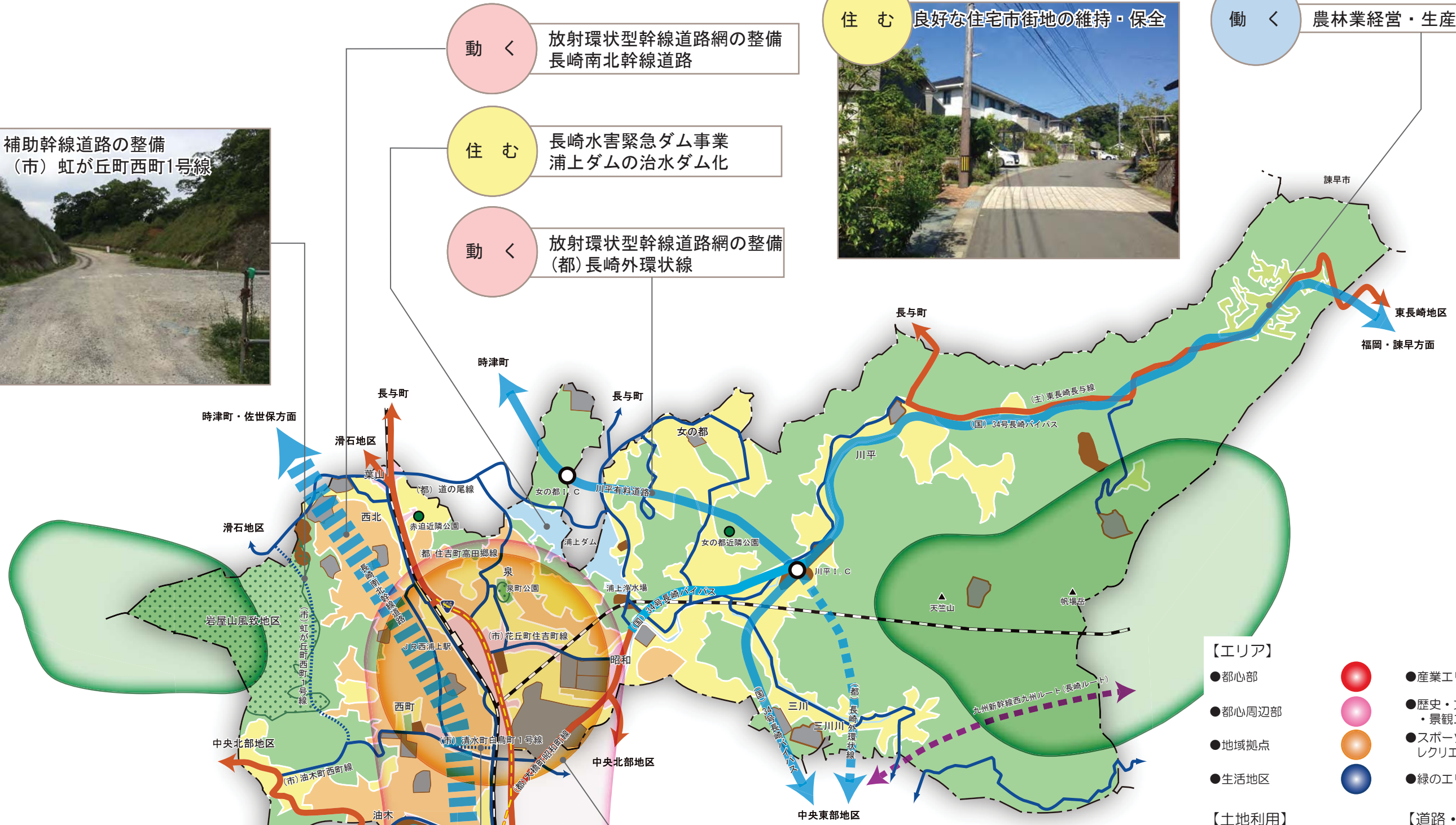
働 < 農林業経営・生産基盤の強化



学ぶ 育む やすらく 文教地区の形成



集 う 都市機能の集積



- 動 < 放射環状型幹線道路網の整備
長崎南北幹線道路
- 住 む 長崎水害緊急ダム事業
浦上ダムの治水ダム化
- 動 < 放射環状型幹線道路網の整備
(都)長崎外環状線

<p>【エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都心部 ● 都心周辺部 ● 地域拠点 ● 生活地区 	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業エリア ● 歴史・文化・景観エリア ● スポーツ・レクリエーションエリア ● 緑のエリア
<p>【土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 斜面市街地 ● 住宅地 ● 商業業務地 ● 工業地・港湾 ● 流通業務地 ● 公園・緑地・自然環境の保全地 ● 農地環境の保全地 ● その他 ● 水面 ● 学校教育施設 ● 大規模公共施設 ● その他の施設 ● 公園・風致地区 ● 農林水産資源 ● 地区界 ● 都市計画区域界 	<p>【道路・交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路 ● 自動車専用道路等 (計画・構想) ● 主要幹線道路 (計画・構想) ● 補助幹線道路 (計画・構想) ● 新幹線 ● 鉄道 ● 路面電車 ● 航路 <p>※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。</p>

1) 地区の概況

- ①本地区は市の北部の岩屋山山裾に位置し、時津町、長与町と隣接しています。地区中央に東西に位置する幹線道路を中心に市街地が広がり、周囲は山林に囲まれています。
- ②横尾を除く各町は江戸期においては彼杵郡滑石村の区域で大村藩に属し、水田の多い地域であったといわれています。
- ③明治5年、西浦上村の一部となり、滑石郷と呼ばれるようになりました。昭和39年から滑石団地の開発により急速に発展し、長崎では最大規模の町となり、町の分割が行われ、11ヵ町（1丁目を1町とする）となりました。
一方、横尾1～5丁目の区域も江戸期は大村藩に属し彼杵郡時津村の区域でしたが滑石団地の開発以降、宅地化が進み、地理的に時津元村よりも滑石地区に隣接しており、住民の希望もあって昭和48年4月に市域に編入されました。

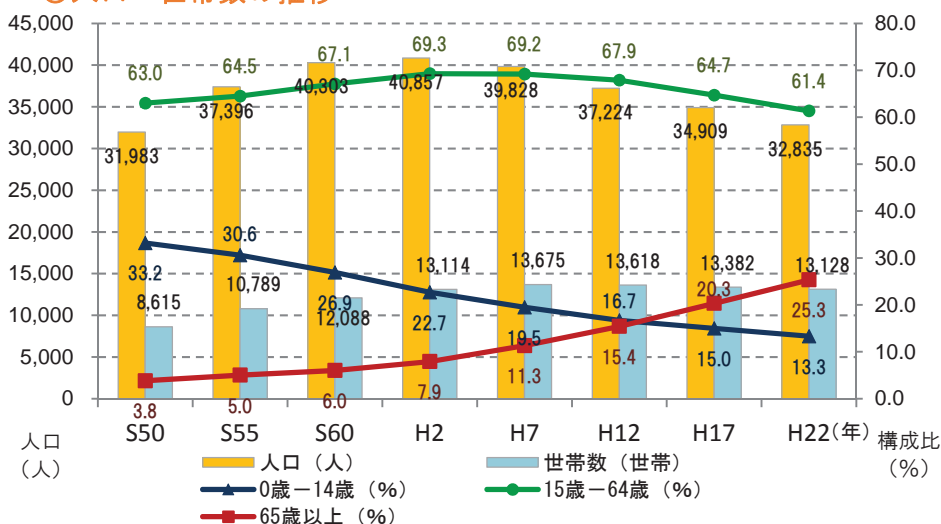
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ①平成26年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の1.5%（603.6ha）であり、市街化区域面積は地区の52.2%（315.0ha）となっています。
- ②平成22年国勢調査の地区人口は32,835人で、昭和50年の31,983人と比較して増加しています。世帯数は、昭和50年の8,615世帯から平成22年で13,128世帯と増加しています。1世帯あたり人員は2.5人となっており、市平均の2.4人を上回っています。
- ③65歳以上の人口割合は25.3%で、市平均25.0%とほぼ同様となっています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成47年には本地区人口は約26,900人まで減少することが予測されています。
- ⑤市街地は計画的に整備された住宅団地を中心に形成されており、交通結節点となっている葉山の幹線道路沿道においては、大規模複合店舗が立地しています。滑石地区においては、老朽化した市営住宅などの建替えが行われています。

◎人口・世帯数の推移



⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、防災・防犯の「自然災害対策」と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	リフォームの指導や支援	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	32%	28%	32%	34%	24%	28%
滑石	36%	35%	28%	33%	34%	25%	34%

◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
滑石	110人	57人	24人	9人	6人	4人	9人	1人
	100.0%	53.2%	12.8%	10.6%	6.4%	5.3%	10.6%	1.1%

凡例 1位 2位 3位

3) 地区の主要課題

①良好な住宅地の環境保全

大規模開発による住宅地が形成されていることから、その良好な住環境の保全が必要です。市営住宅の建替えが必要となっています。大井手川の災害からの安全性の確保が必要です。

②周辺地域との連携・交流を促進する広域交通体系の整備、公共交通の維持・充実

時津町との円滑な連絡を図るため、周辺地域と結ぶ南北の幹線道路の整備が求められています。東西方向の幹線道路である都市計画道路滑石町線の機能強化が必要です。また、地区内を運行するバス等の利便性の向上が必要です。

③生活サービス機能の維持

生活の利便性を確保するために、滑石支所や JR 道ノ尾駅周辺における生活サービス機能の維持が求められています。

④自然環境の保全

岩屋山風致地区や滑石太神宮などに優れた緑地が分布していることから、その保全と大井手川の自然環境の保全が必要です。

4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

大型住宅団地の再生による快適に住み続けられる地区づくり

5) 地区の生活像の目標

住む：既存の生活基盤を活かしたゆとりある住み良い快適な暮らしの確保

大園地区などの計画的に整備された住宅団地においては、良好な住環境の維持・保全を目指します。

働く：商業・業務を中心とした雇用の場の確保

国道 206 号の沿道において商業・業務地の形成を目指します。

動く：広域アクセスの充実と、都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

集う：地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

支所周辺における日常生活機能の確保を目指します。

学ぶ・育む・やすらぐ

：豊かな自然環境の保全

岩屋山風致地区の良好な自然環境の保全を目指します。

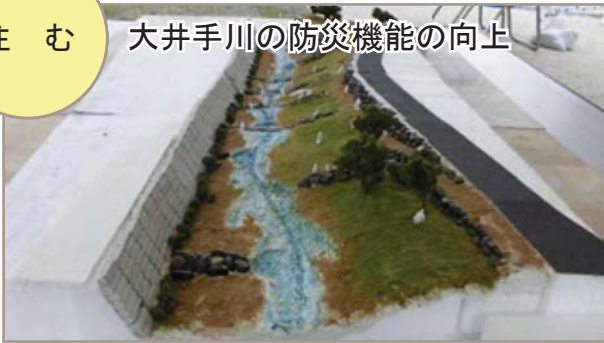
6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	■良好な住環境を維持・保全する ①大園地区においては、市営住宅の建替えなどを推進し、都市基盤施設を更新するとともに快適で利便性の高い良好な住宅市街地の形成を図ります。 ②滑石団地など計画的に整備された住宅市街地においては、良好な住環境の維持・保全を図ります。 ■住み良い生活環境を確保する ①大井手川については、都市計画道路滑石町線の整備と併せた防災機能の向上を図ります。 ②市営大園住宅の建替えと併せた大園公園の機能更新を図ります。
働く	■雇用の場を確保する ①滑石支所の周辺や国道 206 号、都市計画道路滑石町線の沿道においては、周辺環境に配慮した生活サービス施設等の立地により、地域の雇用を確保します。

<p>動 く</p>	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①地域高規格道路長崎南北幹線道路の整備を促進し、都心部と市北部、時津町、西海市、佐世保市との連携の強化を図るとともに、国道 206 号の交通渋滞の緩和、周辺生活道路網の環境改善や既成市街地への居住の推進を図ります。</p> <p>②幹線道路である都市計画道路滑石町線の整備を促進し、周辺地区との連携の強化を図ります。</p> <p>③補助幹線道路として、市道虹が丘西町 1 号線の整備を推進し、国道 206 号の交通渋滞の緩和を図ります。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内では JR が運行され、また、主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>②JR 道ノ尾駅については、都市計画道路道の尾駅前線や、高田南土地区画整理事業（長与町）によるアクセス道路、駅前広場などの整備を促進し、交通結節機能の強化による交通便利性の向上を図ります。</p>
<p>集 う</p>	<p>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</p> <p>①地域コミュニティの中心である滑石支所や JR 道ノ尾駅周辺の商業・業務地においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては地域拠点と連携することで補完を図ります。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①滑石平宗公園については、スポーツ・レクリエーション拠点として活用を図ります。</p> <p>②地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
<p>学ぶ・育む・やすらぐ</p>	<p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①岩屋山風致地区や滑石太神宮などの良好な自然景観を保全します。</p> <p>②市営住宅の整備においては、良好な住宅市街地景観の形成を図ります。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①岩屋山風致地区などの市街地周辺の緑地や滑石太神宮などの市街地内の緑地については、良好な自然環境として保全するとともに、市街地内のみどりの創出を図ります。</p> <p>■親しみのある水辺環境を創る</p> <p>①大井手川は、市街地の貴重な水辺空間として適正な維持・管理を行うとともに、市営住宅の建替えと併せた親水空間の整備を推進します。</p>

住む 大井手川の防災機能の向上



住む 良好な住宅市街地の維持・保全



【エリア】

- 都心部
- 都心周辺部
- 地域拠点
- 生活地区
- 産業エリア
- 歴史・文化・景観エリア
- スポーツ・レクリエーションエリア
- 緑のエリア

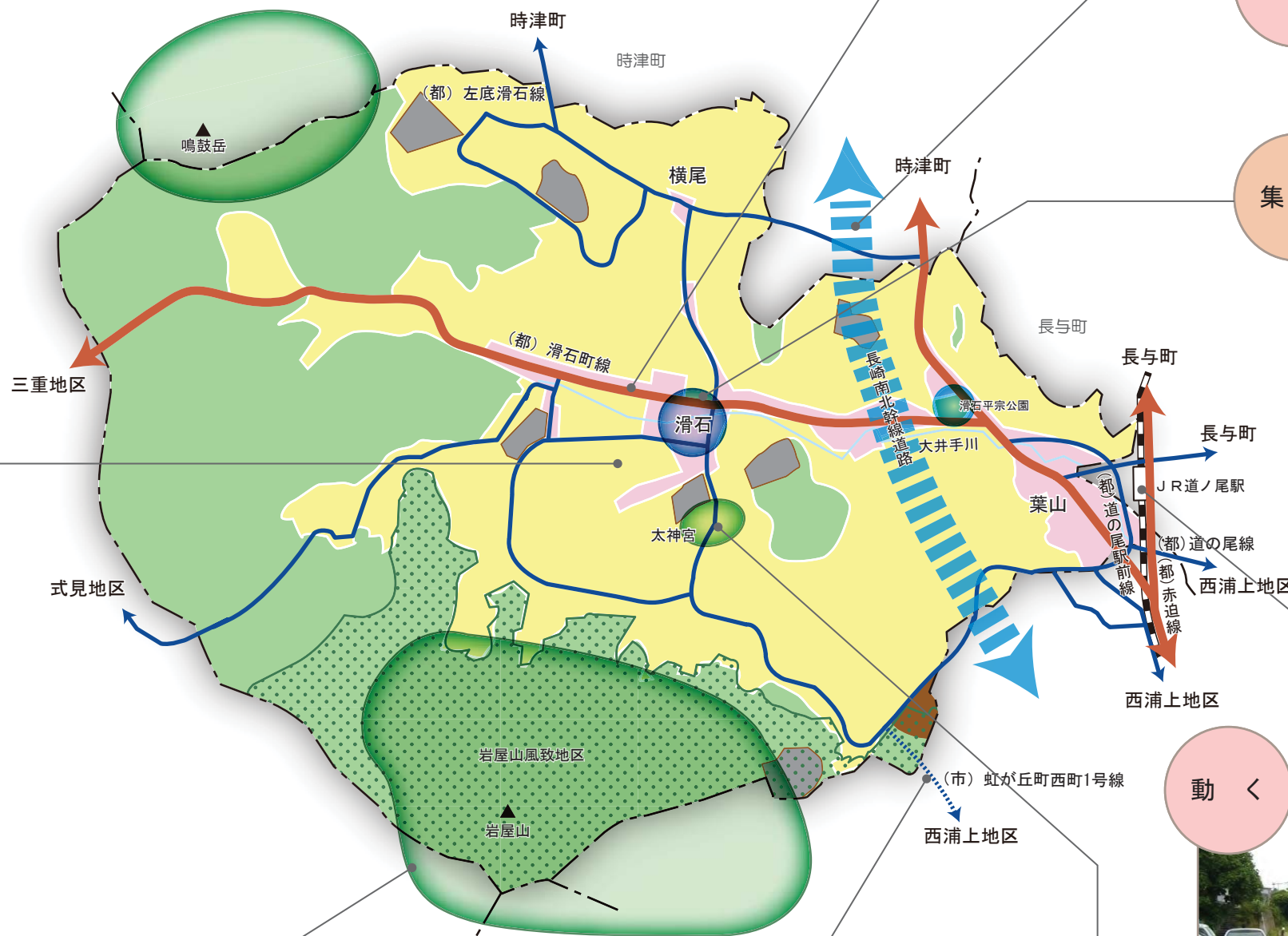
【土地利用】

- 斜面市街地
- 住宅地
- 商業業務地
- 工業地・港湾
- 流通業務地
- 公園・緑地・自然環境の保全地
- 農地環境の保全地
- その他
- 水面
- 学校教育施設
- 大規模公共施設
- その他の施設
- 公園・風致地区
- 農林水産資源
- 地区界
- 都市計画区域界

【道路・交通】

- 高速道路
- 自動車専用道路等 (計画・構想)
- 主要幹線道路 (計画・構想)
- 補助幹線道路 (計画・構想)
- 新幹線
- 鉄道
- 路面電車
- 航路

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。



動 < 放射環状型幹線道路網の整備 長崎南北幹線道路

集う 日常生活機能の維持 (地域拠点連携)

動 < 公共交通利便性の向上 JR道ノ尾駅



学ぶ 育む やすらぐ 良好な自然環境の保全

動 < 補助幹線道路の整備 (市)虹が丘町西町1号線

学ぶ 育む やすらぐ 滑石太神宮周辺の自然景観の保全

1) 地区の概況

- ①本地区は市の北西部に位置し、北は外海地区や琴海地区、東は時津町に接し、地区周辺部の山林より構成されています。また、南には角力灘に面する新長崎漁港を有し、その周囲に市街地が形成されています。
- ②本地区は昭和 48 年に旧三重村から市域に編入され、同年から着工された新長崎漁港の建設とともに急速に市街化が進行してきました。

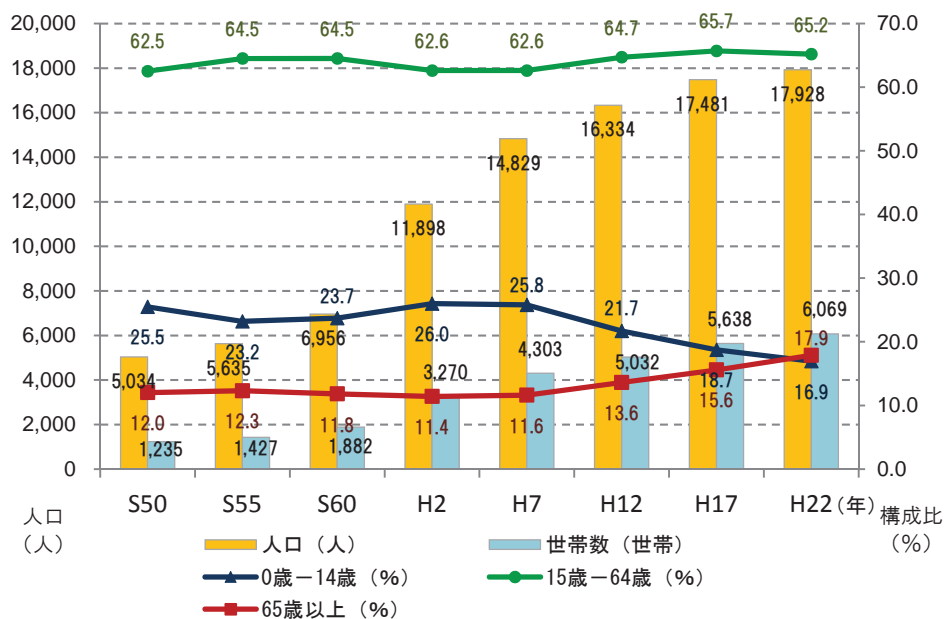
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ①平成 26 年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の 7.6% (3,090.5ha) であり、市街化区域面積は地区の 18.4% (567.7ha) となっています。
- ②平成 22 年国勢調査の地区人口は 17,928 人で、昭和 50 年の 5,034 人と比較して増加しています。世帯数は、昭和 50 年の 1,235 世帯から平成 22 年で 6,069 世帯と増加しています。1 世帯当たり人員は 3.0 人となっており、市平均の 2.4 人を上回っています。
- ③65 歳以上の人口割合は 16.9%と市平均の 25.0%を大きく下回っています。
- ④国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成 47 年には本地区人口は約 20,100 人となることが予測されていますが、長期的には減少する見込みです。

◎人口・世帯数の推移



- ⑤臨海部は漁業関連産業用地として施設立地が進み、後背地においては、中高層の住宅地や低層住宅地を形成しています。また、三重漁港の後背地には旧来からの市街地において、水産関連の商店や住宅などの混在地が形成されています。その他にも、さくらの里や豊洋台などの住宅団地が山手に造成され、地区外からの若い世代の移住が増えています。
- ⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、住宅の「リフォームの指導や支援」、防災・防犯の「防災マップや避難マニュアルなどの情報提供」と答えた人の割合が特に高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	リフォームの指導や支援	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	防災マップや避難マニュアルなどの情報提供
全体	34%	32%	28%	32%	34%	24%	20%
三重	39%	43%	29%	30%	30%	22%	28%

◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
三重	37人	22人	5人	3人	3人	1人	3人	0人
	100.0%	59.5%	13.5%	8.1%	8.1%	2.7%	8.1%	0.0%

凡例 1位 2位 3位

3) 地区の主要課題

①計画的に開発された住宅地の維持・保全、港周辺市街地の環境整備

計画的に開発された住宅地が形成されていることから、その住環境の維持・保全が必要です。さらに、港周辺市街地の延焼などの防災性を考慮した環境整備が必要です。

②周辺地区へのアクセスの強化、公共交通の充実

本地区から時津町、琴海地区などへの結びつきを高めるため、アクセスを強化する必要があります。地区内を運行する公共交通の確保が必要です。

③長崎国際マリン都市構想に基づいた水産業総合拠点の形成

水産業の振興を図るため、新長崎漁港及びその周辺では、長崎国際マリン都市構想に基づいた水産業の機能充実等が求められています。

④生活サービス機能の維持

生活の利便性を確保するために、支所や長崎魚市場周辺の地区の日常生活サービス機能の維持が必要です。

⑤自然環境の保全・歴史遺産の景観形成

さくらの里や京泊公園は優れた自然環境を有するため、その維持・保全が必要です。また、三重崎周辺の自然海岸や緑地の自然環境の保全が必要です。さらに、檜山赤岳周辺の歴史遺産を考慮した景観形成が必要です。

4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

農林水産業と住環境が調和した計画的な地区づくり

5) 地区の生活像の目標

住む：既存の生活基盤を活かしたゆとりある住み良い快適な暮らしの確保

さくらの里などの計画的に整備された住宅団地においては、良好な住環境の維持・保全を目指します。

働く：水産業を中心とした地域産業の確保

新長崎漁港において水産業の経営・生産基盤の強化を目指します。

動く：都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

集う：地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

支所や長崎魚市場周辺における日常生活サービス機能の確保を目指します。

学ぶ・育む・やすらぐ

：豊かな自然環境の保全

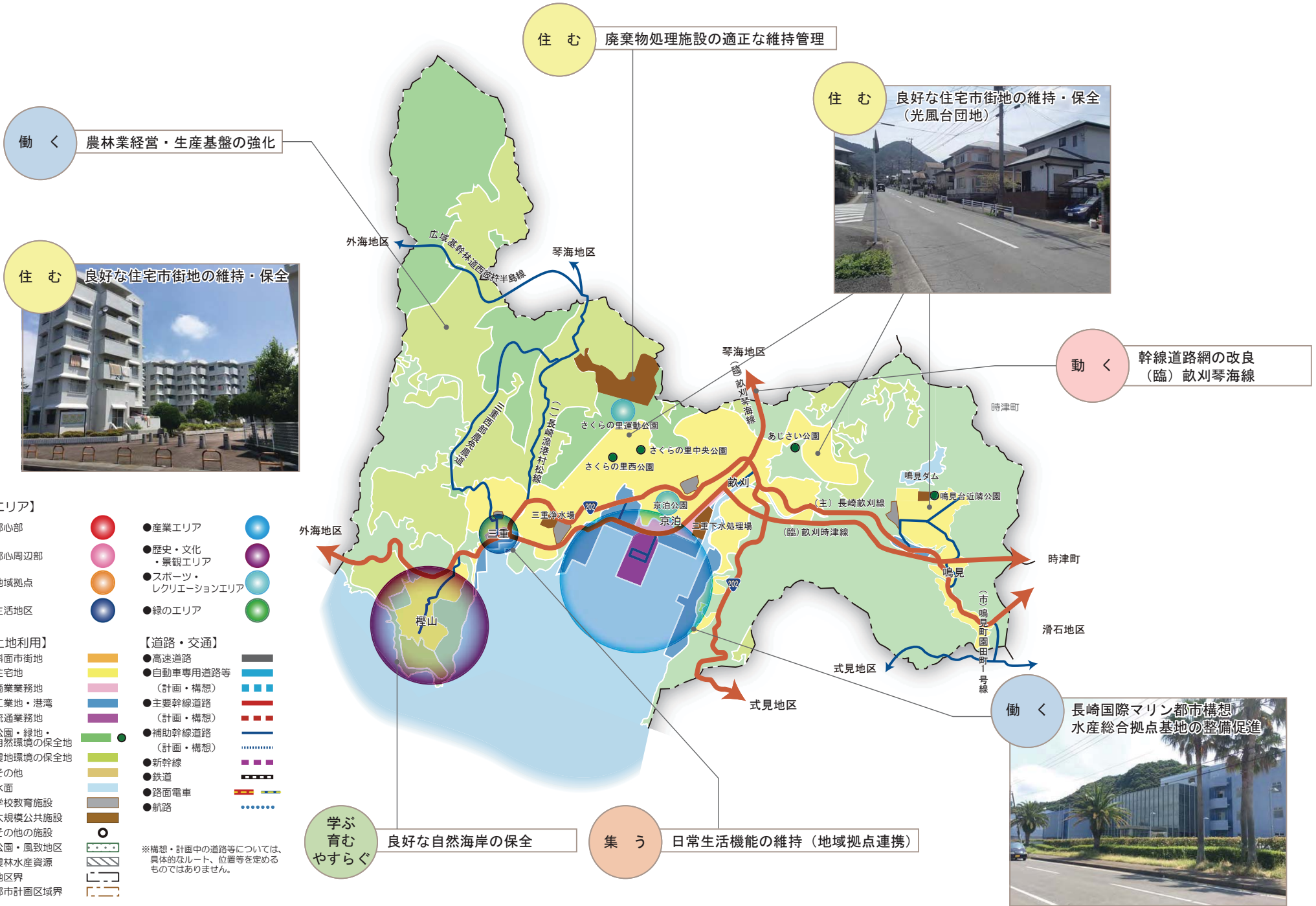
三重崎周辺などの良好な自然環境の保全を目指します。

6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	■良好な住環境を維持・保全する ①さくらの里、豊洋台など、計画的に整備された住宅団地においては、地区計画等を活用し、良好な住環境の維持・保全を図ります。

住む	<p>■住み良い生活環境を確保する</p> <p>①既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。</p> <p>②三京クリーンランドなどの廃棄物処理施設については、周辺の住環境や自然環境に配慮した環境保全対策に努めるとともに、適正な維持・管理を図ります。</p> <p>③三重下水処理場や三重浄水場においては、適正な維持・管理を行います。</p>
働く	<p>■雇用の場を確保する</p> <p>①畝刈・京泊地区の臨港道路畝刈琴海線沿道においては、周辺環境に配慮した生活サービス施設等の立地により、地域の雇用を確保します。</p> <p>■地域産業を確保する</p> <p>①新長崎漁港においては、水揚げから加工・輸送まで一貫した漁港機能を有する機能の充実を図ります。また、新長崎漁港の周辺部では、長崎国際マリン都市構想に基づいた、水産業を中心とした産業基盤、研究機関などの集積を促進し、水産物供給の水産業総合拠点を形成します。</p> <p>②農林水産業の経営・生産基盤の強化を図ります。</p> <p>③住宅地に隣接する水産関連施設などの環境保全対策を図ります。</p>
動く	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①国道 202 号と国道 206 号を繋ぐ幹線道路である、臨港道路畝刈琴海線の整備を促進します。</p> <p>②広域基幹林道西彼杵半島線は、地域林業の活性化と農山村の生活環境の改善、森林資源の有効活用を図るため、適切な活用を図ります。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p>
集う	<p>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</p> <p>①地域コミュニティの中心である三重支所や長崎魚市場周辺の商業・業務地においては、日常的な地元住民への生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては地域拠点と連携することで補完を図ります。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①さくらの里や京泊公園は、スポーツ・レクリエーション拠点として適正な維持・管理を行います。</p> <p>②地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①京泊緑道は、市街地内の連続した緑地として良好な沿道景観を形成しており、適正な維持・管理を行います。</p> <p>②水産業総合拠点基地として都市景観の形成・維持・保全を図ります。</p> <p>③世界遺産候補である「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の外海地区にある構成遺産と関わりの深い、檜山赤岳周辺においては、地区の歴史を感じることができる場所として保全を図ります。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①三重崎周辺の良好な自然海岸や緑地については、良好な自然環境として保全します。</p> <p>②市街地周辺の良好な自然環境を保全します。</p> <p>■親しみのある水辺環境を創る</p> <p>①鳴見ダム周辺の緑地については、水とみどりが一体となった良好な自然環境として保全します。</p>



働 く 農林業経営・生産基盤の強化

住む 良好な住宅市街地の維持・保全



住む 廃棄物処理施設の適正な維持管理

住む 良好な住宅市街地の維持・保全 (光風台団地)



働 く 幹線道路網の改良 (臨) 畝刈琴海線

働 く 長崎国際マリン都市構想 水産総合拠点基地の整備促進



学ぶ 育む やすらぐ 良好な自然海岸の保全

集 う 日常生活機能の維持 (地域拠点連携)

- 【エリア】
- 都心部
 - 都心周辺部
 - 地域拠点
 - 生活地区
- 【土地利用】
- 斜面市街地
 - 住宅地
 - 商業業務地
 - 工業地・港湾
 - 流通業務地
 - 公園・緑地・自然環境の保全地
 - 農地環境の保全地
 - その他
 - 水面
 - 学校教育施設
 - 大規模公共施設
 - その他の施設
 - 公園・風致地区
 - 農林水産資源
 - 地区界
 - 都市計画区域界
- 【道路・交通】
- 高速道路
 - 自動車専用道路等 (計画・構想)
 - 主要幹線道路 (計画・構想)
 - 補助幹線道路 (計画・構想)
 - 新幹線
 - 鉄道
 - 路面電車
 - 航路
- 産業エリア
- 歴史・文化・景観エリア
- スポーツ・レクリエーションエリア
- 緑のエリア
- 産業界
- 歴史・文化・景観
- スポーツ・レクリエーション
- 緑のエリア

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

1) 地区の概況

- ① 本地区は市の最北部に位置し、西は外海地区、南は三重地区や時津町、北は西海市に隣接し、東は大村湾に面しています。地区のほとんどが山林で構成されており、地区を南北に貫いている国道 206 号沿いに平坦地が形成されています。
- ② 戦国時代の末期より明治時代に至るまでの 300 年間大村藩領に属し、廃藩置県後長崎県に属しました。
- ③ その後、明治 22 年に町制施行により、長浦村・村松村が誕生した後、昭和 34 年に長浦村・村松村が合併して琴海村となり、昭和 44 年に町制施行により琴海町になりました。
- ④ 平成 18 年 1 月 4 日に市域に編入されました。

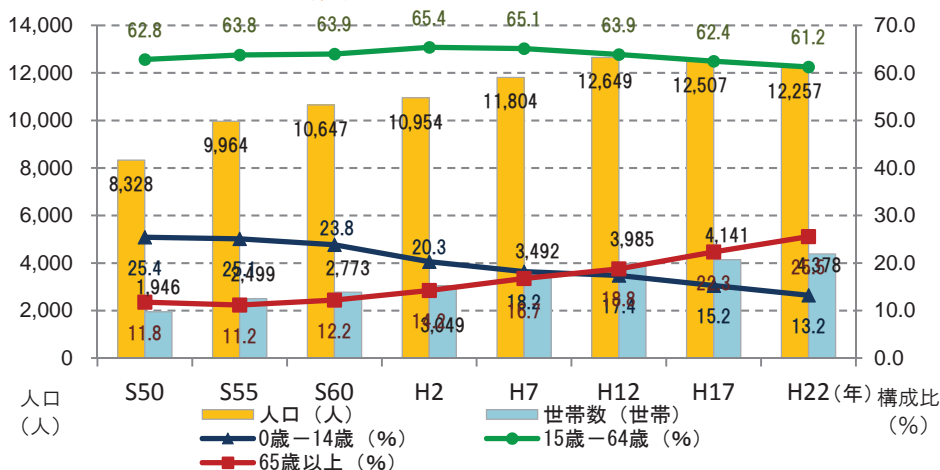
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ① 平成 26 年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の 16.7% (6,741.0ha) であり、地区の 36.6% (2,469.1ha) が、区域区分(線引き)がない琴海都市計画区域に指定されています。
- ② 平成 22 年国勢調査の地区人口は 12,257 人で、昭和 50 年の 8,328 人と比較して増加しています。世帯数は、昭和 50 年の 1,946 世帯から平成 22 年で 4,378 世帯と増加しています。1 世帯当たり人員は 2.8 人となっており、市平均の 2.4 人を上回っています。
- ③ 65 歳以上の人口割合は 25.5%と市平均 25.0%をわずかに上回っています。
- ④ 国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成 47 年には本地区人口は約 9,600 人まで減少することが予測されています。
- ⑤ 本地区は長崎市で唯一大村湾に面した地区で、大村湾沿岸の美しい海岸線などが大村湾県立公園に指定されており、特に土井ノ浦半島においては、海水浴場やゴルフ場、ホテルなどが整備され、美しい自然環境を眺望できるスポーツ・レクリエーション拠点となっています。
- ⑥ 地区の南部は豊かな自然環境に恵まれた住宅団地を形成しています。

◎人口・世帯数の推移



- ⑦主要産業は、長浦すいかやハウスみかんなどの農業であり、ホタルが生息する河川があるなど、豊かな自然環境にも恵まれています。
- ⑧市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、住宅の「リフォームの指導や支援」と答えた人の割合が高くなっています。また、「今後のまちづくりで重点をおくべきことは」という設問では、市全体と比較して「安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり」の回答割合が高くなっています。

◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	リフォームの指導や支援	身近な道路の整備・拡幅	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	32%	28%	32%	34%	24%	28%
琴海	27%	47%	22%	36%	35%	30%	34%

◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
琴海	32人	21人	3人	4人	0人	1人	2人	1人
	100.0%	65.6%	9.4%	12.5%	0.0%	3.1%	6.3%	3.1%

凡例 1位 2位 3位

3) 地区の主要課題

①良好な住環境の維持

既成市街地は、良好な住環境を形成していることから、その維持・確保が求められています。

②周辺地域と結ぶ幹線道路網の整備

長崎市の北端に位置することから、長崎市中心部や佐世保方面と結ぶ幹線道路網の整備が求められています。

③商業・業務、工業の振興

生活の利便性を確保するために、国道206号沿道の商業・業務地の確保が必要です。併せて、働く環境を整えるとともに、工業振興のため、臨海道路畝刈琴海線沿道における工業地の維持・増進が求められています。

④観光の振興

土井ノ浦半島は優れた自然環境を有していることから、これを生かした観光の振興が求められています。

⑤自然環境の保全・整備

土井ノ浦半島の大村湾県立公園周辺には、優れた緑地等が分布していることから、これら自然環境の保全・整備が求められます。

4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

農業を中心とした地場産業の振興と安全で快適に定住できる地区づくり

5) 地区の生活像の目標

住む：既存の生活基盤を活かしたゆとりある住み良い快適な暮らしの確保

琴海ニュータウンなどの計画的に整備された住宅団地においては、良好な住環境の維持・保全を目指します。

働く：農業を中心とした地域産業の確保

地域産業経営・生産基盤の強化を目指します。

動く：広域アクセスの充実と、都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

集う：観光による交流の促進と地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

土井ノ浦半島の活用や行政センター周辺における日常生活機能の確保を目指します。

学ぶ・育む・やすらぐ

：豊かな自然環境の保全

土井ノ浦半島などの良好な自然環境の保全を目指します。

6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	■良好な住環境を維持・保全する ①琴海ニュータウンなど計画的に整備された住宅団地について、今後も良好な住環境の維持・保全を図ります。 ■住み良い生活環境を確保する ①既成市街地においては、生活道路や公園などの適切な整備、維持・管理により、良好な住環境の維持・保全を図ります。 ②安全・安心な水道水を効率的に供給するため、水道施設の統合整備を推進します。
働く	■雇用の場を確保する ①行政センターや西海町・琴海村松町周辺の国道 206 号沿道においては、周辺環境に配慮した生活サービス施設等の立地により、地域の雇用を確保します。 ■地域産業を確保する ①農業の経営基盤の強化を図ります。

働 く	<p>■産業基盤を確保する</p> <p>①臨海道路畝刈琴海線沿道では、今後も周辺環境と調和した工業地として利便性の向上を図ります。</p>
動 く	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①地域高規格道路西彼杵道路の整備を促進し、都心部や西海市、佐世保市方面との連携を強化し、交流人口の拡大による観光・産業の活性化、救急医療体制の強化などを図ります</p> <p>②国道 206 号、主要地方道神ノ浦港長浦線の整備を促進し、周辺地区との連携の強化や住民の利便性の向上を図ります。</p> <p>③一般県道奥ノ平時津線、一般県道長崎漁港村松線の整備を促進し、利便性の向上を図ります。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移動手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>②公共交通空白地域の解消を図るため、コミュニティバスの適正な運行に努めます。</p>
集 う	<p>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</p> <p>①地域コミュニティの中心である行政センターや村松事務所周辺においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては地域拠点と連携することで補完を図ります。</p> <p>■観光に磨きをかける</p> <p>①土井ノ浦半島は、恵まれた自然環境の中に海水浴場やゴルフ場、ホテルなどが整備されており、美しい自然環境を眺望できるスポーツ・レクリエーションの拠点として活用を図ります。</p> <p>②農山漁村地域の高齢者や女性などに生きがいや活躍の場を提供し、農水産業後継者の育成や遊休農地の解消等を図るため、グリーンツーリズム活動を推進し、地産地消や地域の活性化などを目指します。</p> <p>③「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①琴海南部運動公園については、住民の憩いの場としての活用を図ります。</p> <p>②地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
学ぶ・育む・やすらぐ	<p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①土井ノ浦半島一帯における複雑な海岸線と半島のみどりが織りなす美しい自然景観の保全に努めます。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①土井ノ浦半島沿岸などの大村湾県立公園に指定されている地区については、今後とも自然公園全体の森林や海岸の美しい自然環境の連続性を維持するため、背後の樹林地と一体的に保全を図ります。</p> <p>②市街地内の樹林地もしくは樹林が豊富な地区や、水辺の良好な自然環境を有する地区は、良好な都市環境の形成を図ります。</p>

動 く 放射環状型幹線道路網の整備
(西彼杵道路)



動 く 幹線道路網の改良
(主) 神ノ浦港長浦線

集 う 日常生活機能の維持 (地域拠点連携)

学ぶ
育む
やすらぐ
良好な自然海岸・緑地の保全

住 む 良好な住宅市街地の維持・保全

集 う 琴海南部公園の活用

- | | |
|---|--|
| <p>【エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 都心部 ● 都心周辺部 ● 地域拠点 ● 生活地区 | <ul style="list-style-type: none"> ● 産業エリア ● 歴史・文化・景観エリア ● スポーツ・レクリエーションエリア ● 緑のエリア |
| <p>【土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 斜面市街地 ● 住宅地 ● 商業業務地 ● 工業地・港湾 ● 流通業務地 ● 公園・緑地・自然環境の保全地 ● 農地環境の保全地 ● その他 ● 水面 ● 学校教育施設 ● 大規模公共施設 ● その他の施設 ● 公園・風致地区 ● 農林水産資源 ● 地区界 ● 都市計画区域界 | <p>【道路・交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路 ● 自動車専用道路等 (計画・構想) ● 主要幹線道路 (計画・構想) ● 補助幹線道路 (計画・構想) ● 新幹線 ● 鉄道 ● 路面電車 ● 航路 |

動 く 幹線道路網の改良
(臨) 畝刈琴海線

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。



1) 地区の概況

- ① 本地区は市の北西部に位置し、東は琴海地区、南は三重地区、北は西海市に隣接し、西は角力灘に面しています。西側洋上には池島など大小の島々が点在しています。東側の山岳地から西向きの斜面地となっており、主要河川は黒崎川、出津川、神浦川の三つで、下流域にそれぞれ平野部があり、周辺に集落・農耕地・港があります。
- ② 明治 22 年町村制施行により西彼杵郡神浦村、黒崎村が成立しました。その後昭和 30 年に神浦村、黒崎村が合併し外海村となり、昭和 35 年に町制施行し外海町となりました。キリシタンの町として知られ、本地区の国道 202 号沿いに関連の施設があり、観光地としての一面を持っています。
- ③ 平成 17 年 1 月 4 日に市域に編入されました。

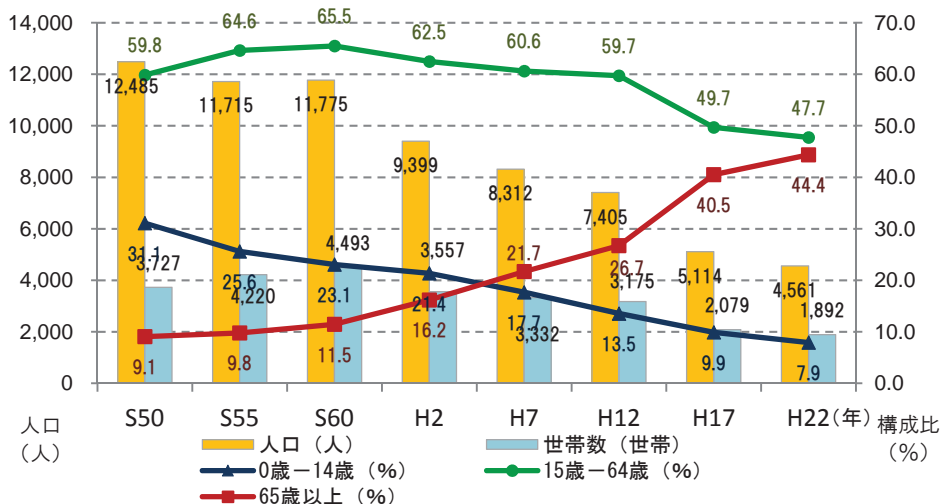
◎位置図



2) 地区の現況と特性

- ① 平成 26 年度都市計画基礎調査によると、地区面積は市域の 11.5% (4,649.8ha) であり、地区全域が都市計画区域外となっています。
- ② 平成 22 年国勢調査の地区人口は 4,561 人で、昭和 50 年の 12,485 人と比較して減少しています。世帯数は、昭和 50 年の 3,727 世帯から平成 22 年で 1,892 世帯と減少しています。1 世帯当たり人員は 2.4 人となっており、市平均の 2.4 人と同じ値となっています。
- ③ 65 歳以上の人口割合は 44.4%と市平均 25.0%を大きく上回っています。
- ④ 国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した将来推計人口では、平成 47 年には本地区人口は約 1,900 人まで減少することが予測されています。
- ⑤ 平成 13 年の池島炭鉱の閉山により人口の減少が進んでいますが、恵まれた海、山、川の豊かな自然や独特の風土、炭鉱施設を活用した体験型観光、世界遺産候補である教会群、遠藤周作文学館などの文化施設や道の駅夕陽が丘そとめの整備充実により、交流人口の増大による地域の発展を図っています。

◎人口・世帯数の推移



⑥市民アンケート調査における項目別の必要な取り組み意向は以下の表のとおりで、市全体と比較して、防災・防犯の「自然災害対策」と答えた人の割合が高くなっています。また、今後のまちづくりに必要な重点的な取り組みでは、市全体と比較して「働く環境が整ったまちづくり」、「自然や景観、歴史文化を育むまちづくり」、「誰もが移動しやすいまちづくり」の回答割合が比較的高くなっています。

◎項目別必要な取り組み意向

項目	市街地	住宅地	道路交通	公園	公共施設	環境	防災・防犯
第1位	地区の中心に日常サービスや居住を誘導	空家対策	公共交通の便数や路線の充実	子どもが安心して遊べる公園	自然の広場や遊歩道の充実	環境に配慮した公共施設の整備	自然災害対策
全体	34%	31%	21%	32%	34%	24%	28%
外海	28%	38%	26%	26%	30%	33%	38%

◎まちづくりの重点的な取り組み

項目	合計	安全・安心で快適な住環境を確保するまちづくり	働く環境が整ったまちづくり	誰もが移動しやすいまちづくり	市や地区の中心に店舗や公共施設などが集まるまちづくり	教育や生涯学習などが充実したまちづくり	自然や景観、歴史文化を守り育むまちづくり	その他
全体	1,278人	616人	235人	127人	86人	51人	149人	14人
	100.0%	48.2%	18.4%	9.9%	6.7%	4.0%	11.7%	1.1%
外海	30人	4人	12人	5人	2人	1人	6人	0人
	100.0%	13.3%	40.0%	16.7%	6.7%	3.3%	20.0%	0.0%

凡例 1位 2位 3位

3) 地区の主要課題

①防災性を考慮した住環境の整備

本地区は、国道202等の道路沿いに集落が形成され、背後は傾斜地となっていることから土砂災害等から安全な住宅地の整備が求められています。

②周辺地区からの円滑な道路交通アクセスの確保

近隣の三重地区や、東部の琴海地区、北部の西海市との地区間連携や観光ルートとしての円滑な道路交通アクセスの確保が求められています。

③歴史・文化・自然等の観光資源の保全・活用

教会堂や池島炭鉱施設、道の駅夕陽が丘そとめ等の歴史・文化・自然の観光資源を有していることから、これらの保全・活用が求められています。

④農林水産物の活用

農林水産業振興のため、水いか、ゆうこうを使った料理・加工品をはじめ、ド・ロさまそうめんやかんころ餅、塩うになど、地区の特産品の宣伝・販売が課題です。

⑤自然環境・景観の保全

大中尾棚田、黒崎永田湿地自然公園、大野地区は、貴重な自然環境や景観を有していることから自然環境や景観の保全・活用が必要です。また、大野教会堂・出津教会堂周辺の歴史的景観、集落の特徴である石積集落景観の保全・活用も必要です。

4) 地区の将来像

現況と特性を踏まえて、地区の将来像を次のように設定します。

農林水産業の振興と美しい自然と国際色豊かな歴史を活かした地区づくり

5) 地区の生活像の目標

住む：自然環境と調和した住み良い快適な暮らしの確保

豊かな自然環境と調和した、良好な住環境の確保を目指します。

働く：農業・水産業を中心とした地域産業の確保

地域産業経営・生産基盤の強化を目指します。

動く：都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区と繋がる道路・交通ネットワークの確保

路線バスなどの適切な運行により、都心部・都心周辺部・地域拠点や周辺の生活地区との公共交通による連携を図ります。

集う：世界遺産候補を中心とした交流の促進と地域コミュニティの中心となる日常生活機能の確保

大野教会堂などの活用や行政センター周辺における日常生活機能の確保を目指します。

学ぶ・育む・やすらぐ

：豊かな自然環境と歴史的景観の保全、学びの場の確保

神浦ダム周辺の良好な自然環境の保全や、大野地区などにおいては良好な景観の形成を目指します。

6) 生活像を実現するための地区づくりの方針

生活像の目標を実現するための地区づくりの方針は以下のとおりです。

生活像	地区づくりの方針
住む	■住み良い生活環境を確保する ①恵まれた自然環境と調和した住環境の維持・保全を図ります。 ②安全・安心な水道水を効率的に供給するため、水道施設の維持・管理を推進します。
働く	■地域産業を確保する ①地域の基幹産業である農林水産業の経営・生産基盤の強化を図ります。 ②ド・ロさまそうめん、かんころ餅、塩うに等の特産品の普及に努めます。 ③水いか、ゆうこうなどの農水産物の加工・販売を促進します。 ④国内で唯一、炭鉱産業の施設を常時体験できる「炭鉱さるく」による池島の振興に努めます。

<p>動 く</p>	<p>■安全で快適な道路を整える</p> <p>①主要地方道神ノ浦港長浦線の整備を促進し、周辺地区との連携の強化を図ります。</p> <p>②国道 202 号は、地区間や西海市と繋がる主要な幹線道路として、今後も適切な維持・管理を図ります。</p> <p>■公共交通の利用を高める</p> <p>①地区内の主要な道路では、バスが運行されており、学生や高齢者などの移手段として、利便性の向上を図ります。</p> <p>②公共交通空白地域の解消を図るため、コミュニティバスの適正な運行に努めます。</p> <p>③離島部における移手段を確保するため、離島航路や島内バスの維持に努めます。</p>
<p>集 う</p>	<p>■地域コミュニティの中心となる日常生活機能を維持する</p> <p>①地域コミュニティの中心である行政センター周辺においては、日常的な生活サービスを維持し、不足する生活サービスについては地域拠点と連携することで補完を図ります。</p> <p>■観光に磨きをかける</p> <p>①炭鉱さるくや、大野教会堂・出津教会堂（世界遺産候補）、道の駅夕陽が丘そとめ、遠藤周作文学館、大中尾棚田などの文化・観光資源を活かした交流を促進するため、受け入れ態勢を整えます。</p> <p>②農山漁村地域の高齢者や女性などに生きがいや活躍の場を提供し、農水産業後継者の育成や遊休農地の解消等を図るため、グリーンツーリズム活動を推進し、地産地消や地域の活性化などを目指します。</p> <p>③「長崎さるく」等のまち歩き観光を推進するため、歴史の面影が感じられるまちなみを分かりやすく巡るルートづくりとともに、来訪者にやさしく分かりやすいサインの設置などに取り組みます。</p> <p>④歴史・文化・自然環境など、まちの個性を活かした地域の活性化を図るため、日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）に登録されている「ながさきサンセットロード」の活用に努めます。</p> <p>■交流施設を確保する</p> <p>①地区公民館等のコミュニティ施設については、地域活動の拠点として、近隣の既存施設（学校施設、空き施設等）を利用した複合化、多機能化や再配置等に取り組みます。</p>
<p>学ぶ・育む・やすらぐ</p>	<p>■良好な景観を誘導する</p> <p>①大野地区（景観形成重点地区）は、大野教会堂周辺から角力灘への眺望の保全を図るとともに、地区の原風景である農村景観の再生を図ります。</p> <p>②景観形成重点地区や重要文化的景観に選定されている出津・牧野地区は、出津教会堂や旧出津救助院などの歴史的建造物や、温じやく石を使った石垣、石積みの保全を図るとともに、地区の原風景である農村景観の再生を図ります。</p> <p>③特徴ある斜面地形を活かした眺望景観の保全・育成に努めます。</p> <p>■みどり豊かな自然環境を守り育てる</p> <p>①大中尾棚田や黒崎永田湿地自然公園の活用に努めます。</p> <p>②身近な環境のみどりの保全と緑化を推進します。</p> <p>③海岸や山林等の自然景観を保全します。</p>

集 う 世界遺産候補の活用・受入態勢の整備
(出津教会堂)

動 く 幹線道路網の整備
(主) 神ノ浦港長浦線 (神ノ浦港付近)

動 く 基幹的な公共交通網の適切な維持
(バス、海上交通)

学ぶ育む やすらぐ 地域資源の活用
(大中尾棚田)



集 う 日常生活機能の維持 (地域拠点連携)

集 う 道の駅夕陽が丘そとめ、
遠藤周作文学館の活用



集 う 観光資源の活用、受入体制の整備
(大野教会堂)



学ぶ育む やすらぐ 歴史的建造物の保全・活用
(出津・牧野地区)

集 う 炭鉱さるく



学ぶ育む やすらぐ 地域資源の活用
(黒崎永田湿地自然公園)



【エリア】		【土地利用】		【道路・交通】	
● 都心部	● 産業エリア	● 斜面市街地	● 高速道路	● 高速道路	● 新幹線
● 都心周辺部	● 歴史・文化・景観エリア	● 住宅地	● 自動車専用道路等 (計画・構想)	● 自動車専用道路等 (計画・構想)	● 鉄道
● 地域拠点	● スポーツ・レクリエーションエリア	● 商業業務地	● 主要幹線道路 (計画・構想)	● 主要幹線道路 (計画・構想)	● 路面電車
● 生活地区	● 緑のエリア	● 工業地・港湾	● 補助幹線道路 (計画・構想)	● 補助幹線道路 (計画・構想)	● 航路
		● 流通業務地	● 公園・緑地・自然環境の保全地	● 公園・緑地・自然環境の保全地	
		● 農地環境の保全地	● その他	● その他	
		● 水面	● 学校教育施設	● 学校教育施設	
		● 大規模公共施設	● その他の施設	● その他の施設	
		● 公園・風致地区	● 農林水産資源	● 農林水産資源	
		● 地区界	● 都市計画区域界	● 都市計画区域界	

※構想・計画中の道路等については、具体的なルート、位置等を定めるものではありません。

各地区鳥瞰図



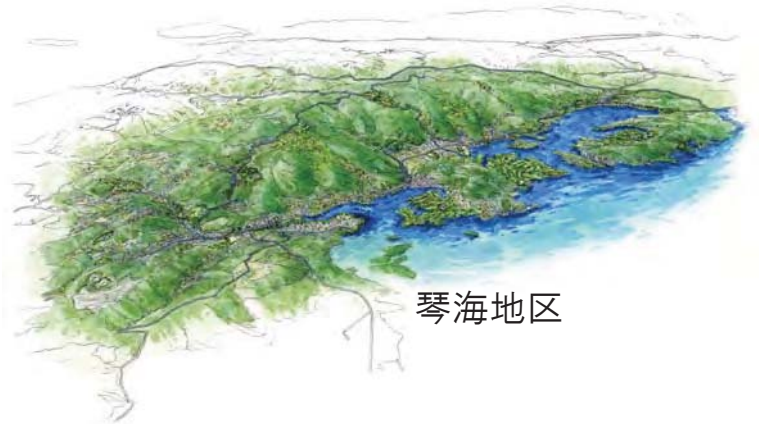
西浦上地区（川平）



滑石地区



三重地区



琴海地区



外海地区